

第4期中長期目標期間中の主要な取組

第4期中長期計画（2015～2019）の3本柱

「運営」から「経営」へ

- 技術の「橋渡し」の強化 <イノベーションの刈り取り>
民間からの資金獲得額を5年間で3倍増
- 「目的基礎研究」の推進 <イノベーションを育む>
優れた「目的基礎研究」なしに、有効な「技術の橋渡し」はできない
- 人材育成 <イノベーションの担い手を育てる>
イノベーションを創出する基盤として、優れた研究者を育成

（平成27年度～令和元年度）

技術の「橋渡し」の強化 <イノベーションの刈り取り>①



第3期中期目標期間の実績
民間資金 46 億円
ベンチャー出資 3 億円
 期初に抱えていた課題

- ・運営交付金が増えない
- ・小規模な連携が主
- ・民間のニーズ把握が不十分
- ・民間のビジネススピードに対応が困難
- ・民間への技術移転の意識が不十分

(基準値)

冠ラボ
 「本気」の企業の研究開発に産総研のエース級研究者が参画
 冠ラボ数 15 ラボ
 計 15.2 億円獲得

ベンチャー支援
 有望ベンチャー約20社を選定し、担当コンシェルジュを配置して重点支援
 出資を受けた数 7 社、計 8.0 億円
 ベンチャー創出数 4 社

重点投資
 企業ニーズが拡大している情報・人間領域に拠点を構築(柏センター、臨海拠点)
 計算プラットフォーム (ABCI)
 深層学習速度 世界一

マーケティング強化
 イノベーションコーディネータ(IC)を全国展開
 IC 200 名
 (産総研 66 人、公設試等 134 人)

特例随意契約
 公開見積競争を原則とする、新たな随意契約方式を他法人に先駆けて導入
 1,353 件

業務改革
 新規事業の開始に伴う業務量増加
 ⇒構造改革的に業務を見直し本部事業組織の労働時間約3.4%相当削減

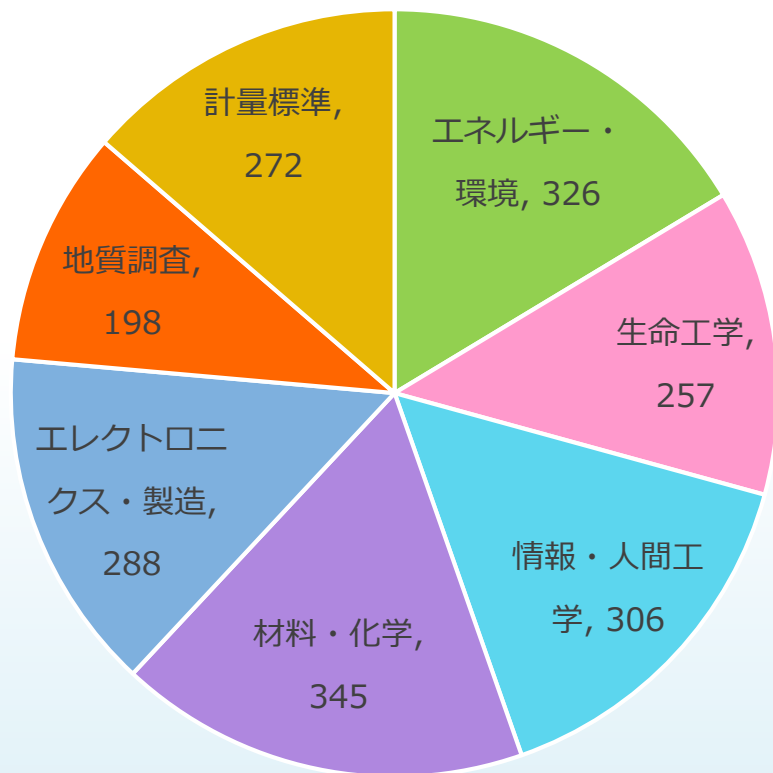
第4期中長期目標期間の目標値
民間資金 138 億円
ベンチャー出資 9 億円

(基準値の 3 倍)

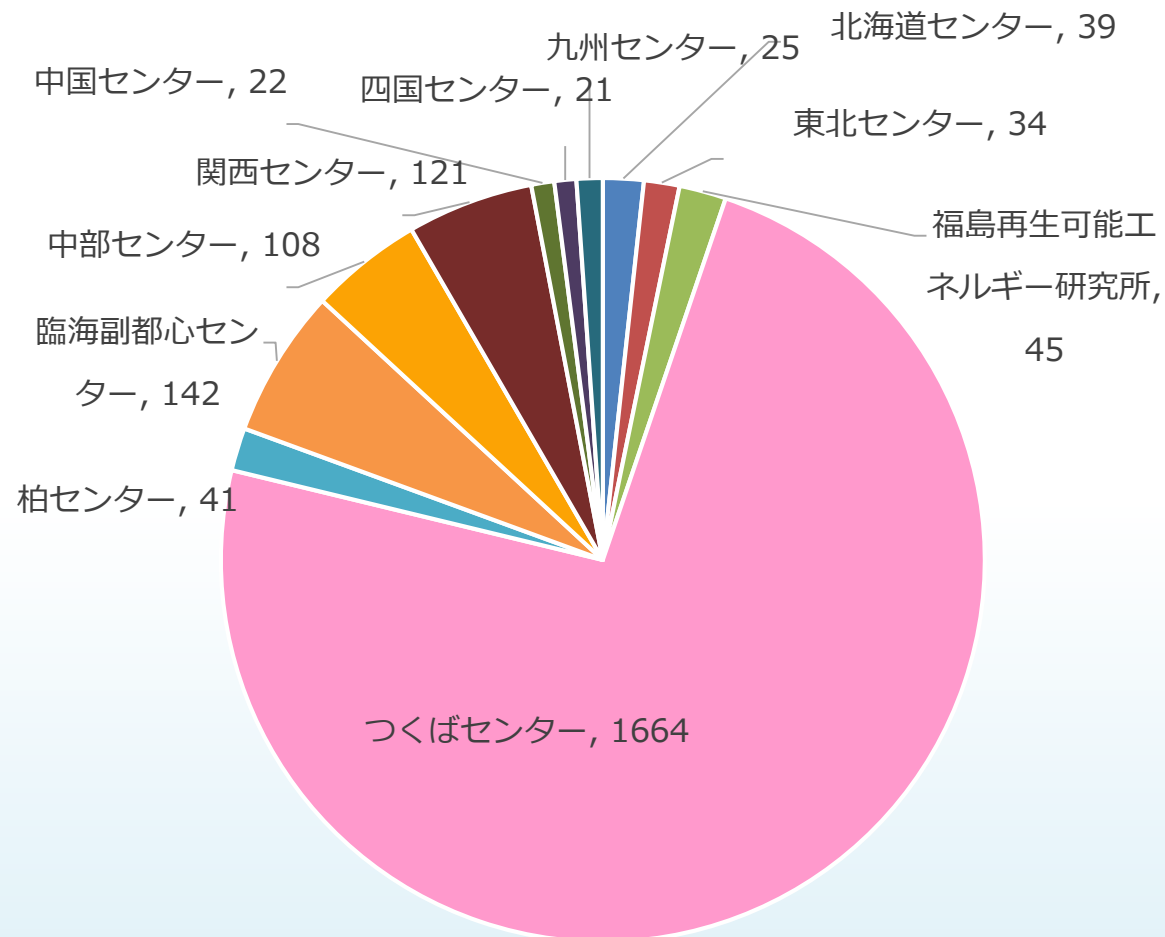
※青字は令和元年度実績

民間からの資金獲得額 3 倍増に向けた取組

研究職の分布



研究職（常勤）の領域分布

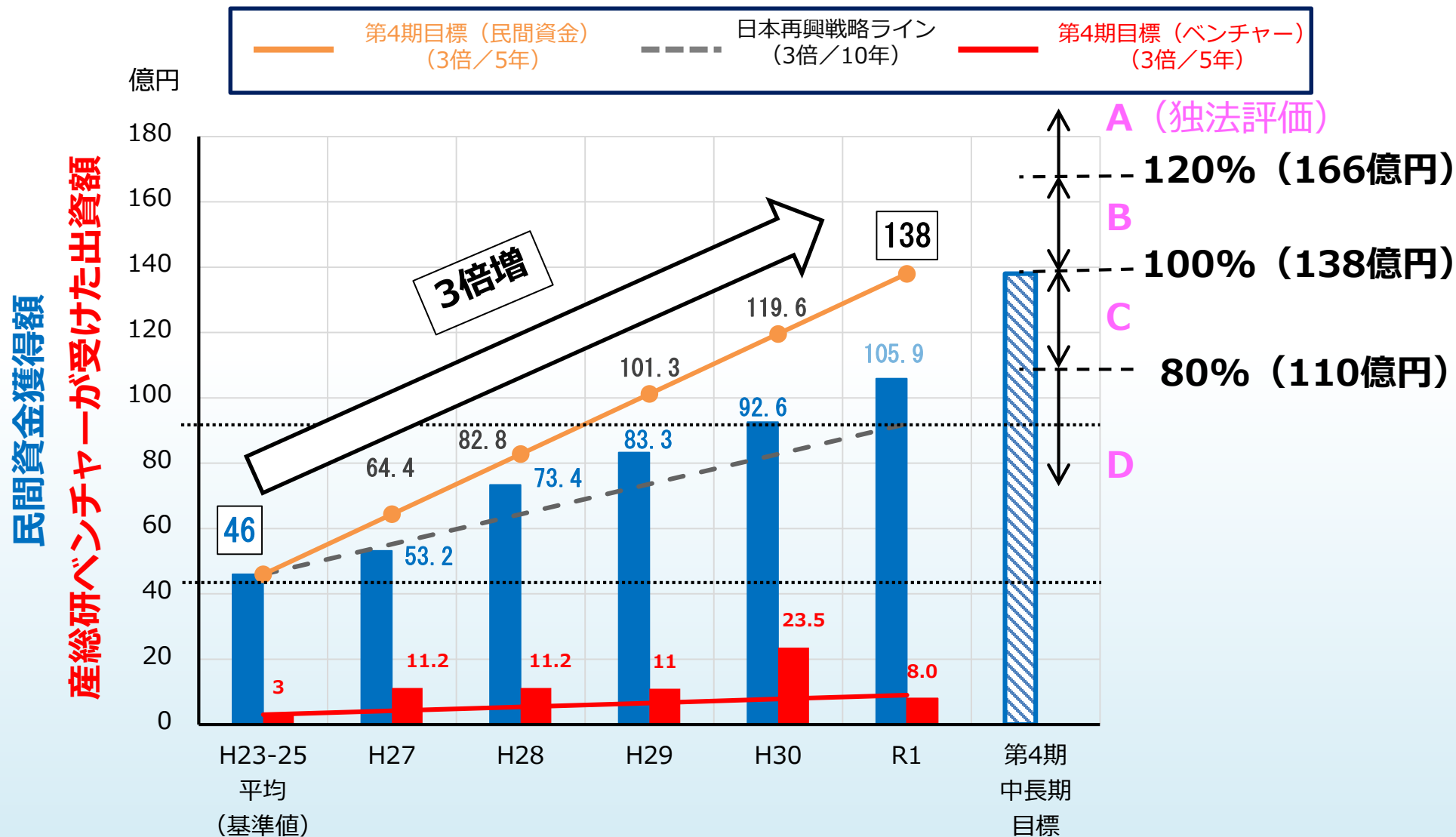


研究職（常勤）の地域拠点分布

(2020年5月現在)

技術の「橋渡し」の強化 <イノベーションの刈り取り>②

民間資金獲得額ならびにベンチャーへの出資額の推移



「目的基礎研究」の推進<イノベーションを育む>

論文奨励

- 査読付き論文数に応じて、実績評価予算を配賦
- 産総研の研究者が発表した論文の中から特に優れた論文に対して、産総研論文賞を授与



産総研論文賞（平成30年度）

戦略予算

- 理事長裁量で戦略的・政策的重点研究テーマに予算配分
- 民間資金獲得・領域間連携の促進、地域センターの機能強化

理研-産総研チャレンジ研究

- 2050年の社会課題解決に向けた研究課題及び社会構造のシフトチェンジにつながる研究課題を共同実施



理研・産総研連携・協力に関する基本協定を締結

論文発表数

平成27年度実績
2,134報
(目標2,135報)



平成30年度実績
2,301報
(目標2,225報)



令和元年度実績
2,428報
(目標2,260報)

人材育成<イノベーションの担い手を育てる>

産総研エッジ・ランナース

○40才以下の若手研究者の挑戦的な提案課題に対して、最長5年間、総額5千万円程度の研究資金を提供

地域における人材育成

○地域の公設試験研究機関の職員向けに、産総研柏センターの計算プラットフォーム（ABCI）を用いた「AI道場」を開催

イノベーションスクール

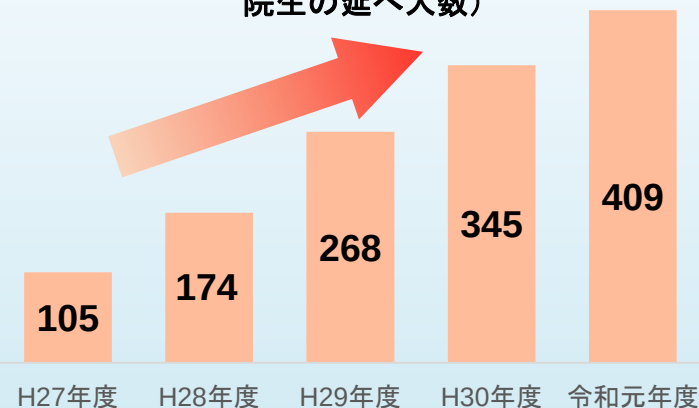
○ポスドク、大学院生に対して、産業界で即戦力として活躍できる研究人材を養成

リサーチアシスタント

○大学院生を産総研が実施している研究開発プロジェクトで雇用し、経済支援するとともに、その研究成果を学位論文等に活用



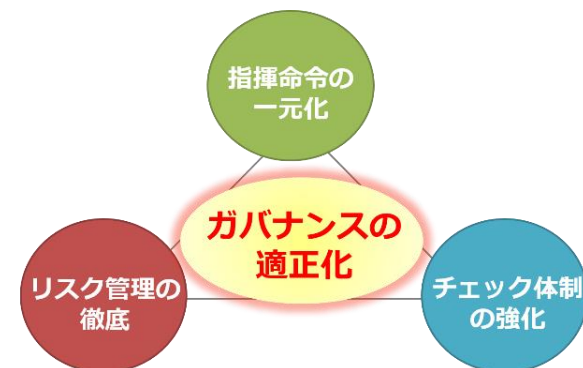
リサーチアシスタント制度利用者数
(在籍する修士課程および博士課程の大学院生の延べ人数)



その他の取組

ガバナンスの適正化

- 「セキュリティ・情報化推進委員会」を理事長の直下に設置し、情報セキュリティ対策と情報化推進戦略を一元的に管理
- すべてのリスク情報をコンプライアンス推進委員会（委員長：理事長）に集約し、関係部署へ適切な指示を実施
- 法務部を新設し、チェック体制を強化



地域イノベーションの推進

- 地域センターと関係領域、本部組織が一堂に会し、将来構想を策定
- 石川、福井サイトを開設
- 東日本大震災の被災3県や熊本地震の被災地の企業・大学を支援



熊本出前シンポジウム（平成29年11月）